

# 猿による被害をなくすために

# 三好市ニホンザル動向調査の調査結果をお知らせします



三好市では平成22年11月より鳥獣追い払い支援隊を立ち上げ、市内のニホンザルに発信器を装着し動向調査を行なっています。

平成23年度までの調査結果は地図のとおりです。(四季を通じた行動範囲)池田7群、井川2群、西祖谷2群、東祖谷1群の全体12群の調査結果です。

**主な行動範囲**

【池田】(A群) 新山〜大和、(B群) 松尾〜知行、(C群) 北谷〜影野、(D群) 新山〜大和、(E群) 川崎〜千足、(F群) 大申〜五軒、(G群) 中津川〜大和

【井川】(A群) 中村南〜段地、(B群) 吉木〜下影

【西祖谷】(A群) 尾井ノ内〜戸ノ谷、(B群) 善徳西〜善徳東

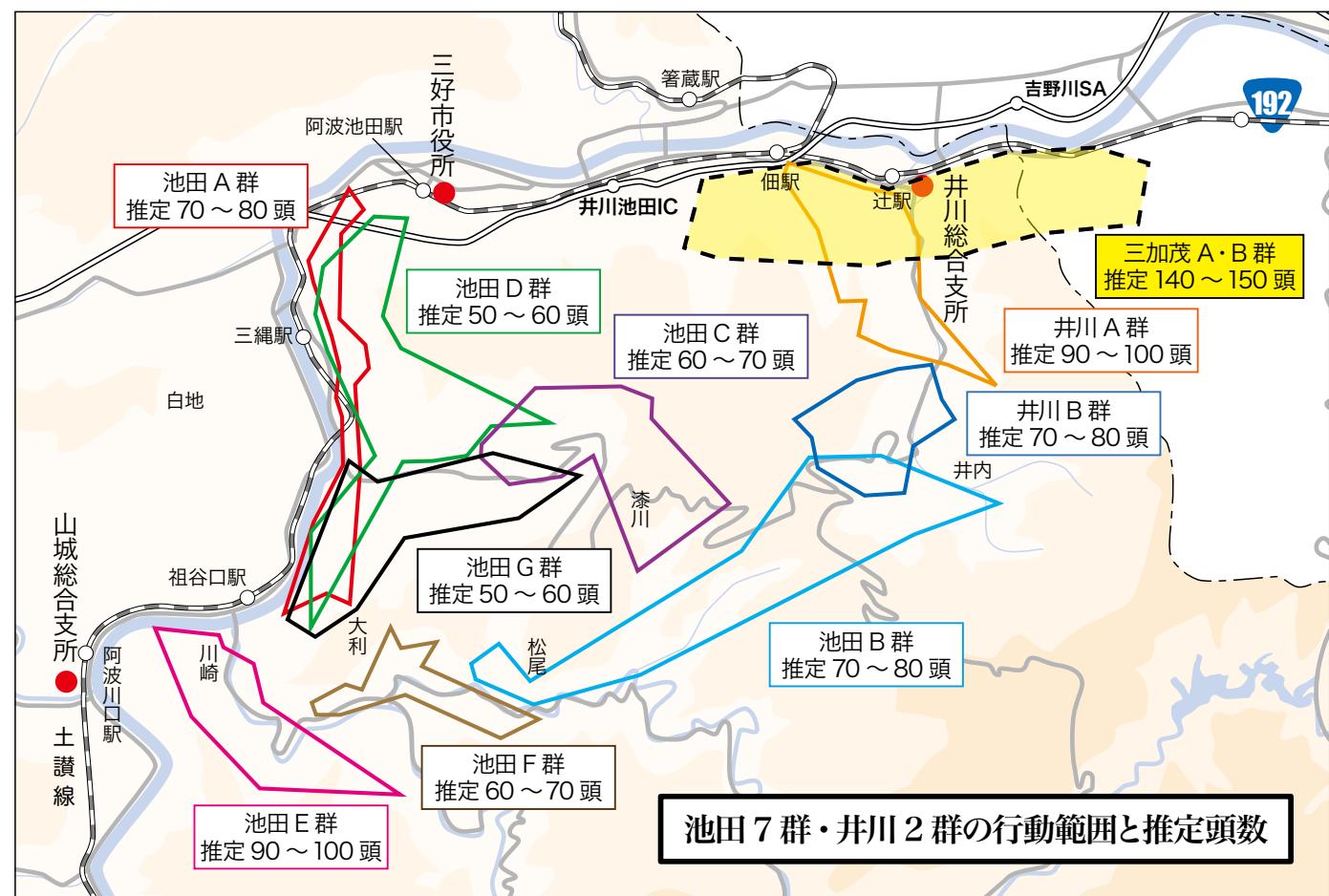
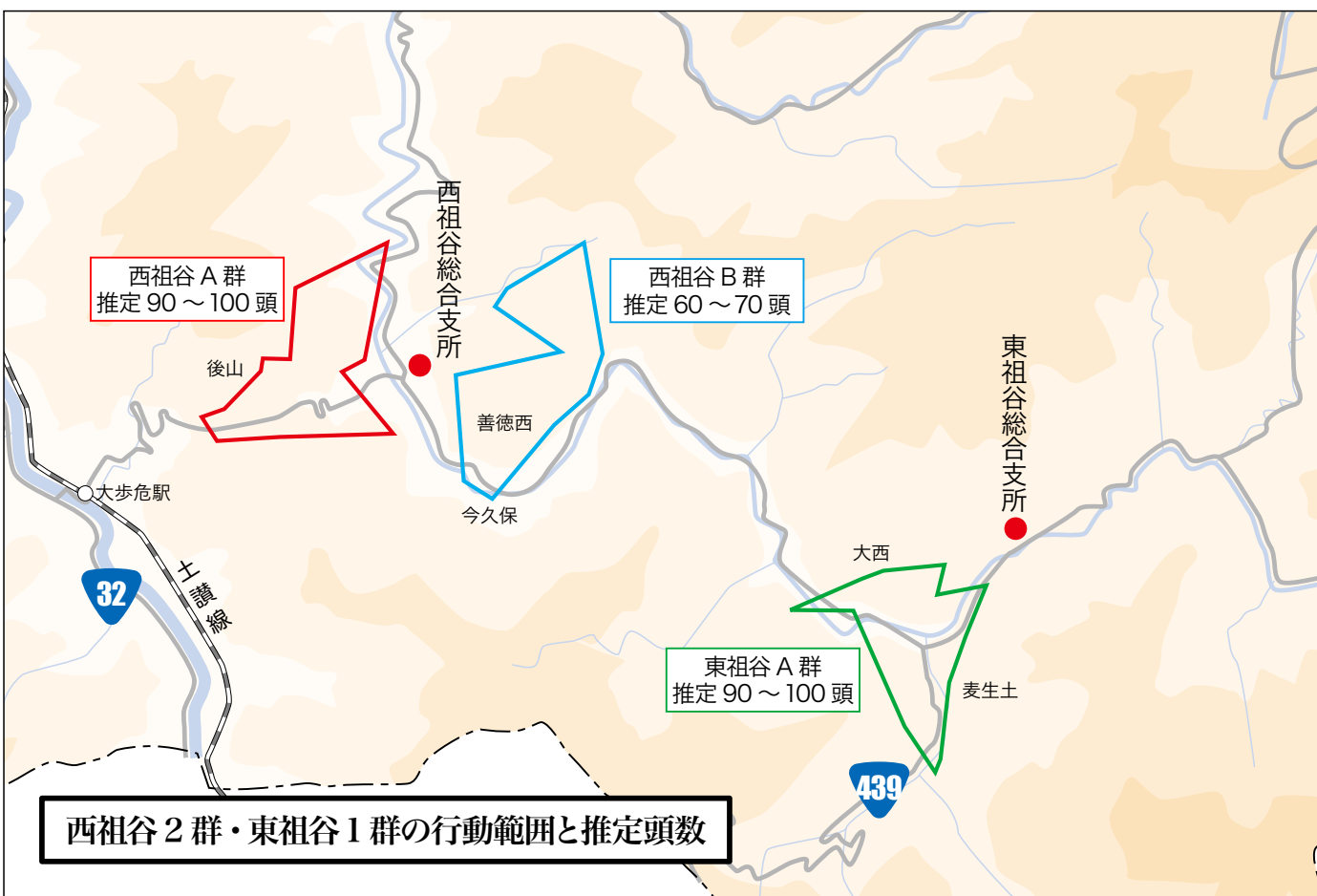
【東祖谷】(A群) 大西〜古味

これ以外に発信器がついていない群れも確認されていて、現在調査中です。三好市内のニホンザルの生息頭数は1000頭を超えると推定されており、そのうちもつとも大きな群れは三加茂A群と判明してきました。三加茂A群につきまちは、井川町を行動することから、東みよし町と連携し現在も調査を行なっています。また、群れは頭数が増えると分裂することも分かっています。

対策として、このデータを利用して群れの動向範囲内に捕獲檻を導入し、ニホンザルの効率的な捕獲や追い払いの推進、また、サル・イノシシ・シカによる農作物被害防止として侵入防護柵設置費補助金の交付を行なっています。

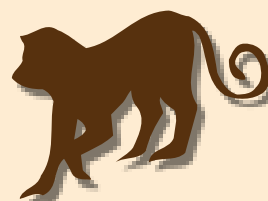
なお、拡大した地図は、農業振興課、各総合支所にご用意しておりますので、ご利用ください。また、三好市ホームページにも掲載しております。

**お問い合わせ先**  
三好市農業振興課  
(072-7617)



## 被害を受けない集落環境づくり

野生鳥獣が被害を出す原因は、実はみなさんのなげない行動が原因になっている場合があります。防護柵などの対策を実施する前に、周りの環境をチェックして、集落のみなんで被害を受けない環境づくりが必要です。



## なぜ集落にくるの？

本来、サルは、森林の動物なので森林外で活動することはありませんが、集落の農作物をエサとして認識すると、森林内のエサが少なくなる時期に集落に出没して農作物を食べるようになります。さらに、集落内で安全にしかも簡単に農作物をエサとして利用できることを学習すると、集落の農作物に依存するようになります。このような状態になると、サル被害対策は非常に困難となります。

動物が集落周辺で被害を出すようになるには、次のような流れがあります。つまり動物はエサのある集落に来て子供を増やし、また被害を出しているのです。そのようにならないために、集落にあるエサを減らす必要があります。サルを人間の生活場所や農地から排除して森林内に押し留めるためにも、効果的な追い払いを集落活動として実施する必要があります。

栄養のあるエサが多い  
→ エサが多いところに  
動物が集まる  
→ 栄養をとると、  
子供が多く生れる

子供が多く生れると、  
エサが多く必要になる

## 対策

- 利用されていない果樹や竹林は切る。
- 草刈りをして、隠れ場所をなくす。
- サルを見かけたら、みんなで追い払う。